

スクラム

～立志・挑戦・感動～

浮羽中学校学校通信

第10号(5月24日発行)

文責 校長 高倉 満

中間テストが終わりました ～しっかりした反省から、改善へ～

中間テストが終わり、答案が今返ってきているかもしれません。返ってきた答案を見て、どんな感想を持ったのでしょうか。計画通りに努力して、満足な結果に終わった人、取り組み方が甘く、結果も悪かった人、ただ何となく受けて、結果も気にならない人、最初から中間テストが気にならなく、結果は全く気にならない人などいろいろな人がいると思いますが、すべての人にとって今大切な事は中間テストについて具体的な反省をすることです。以下では反省すべき具体的な項目について書いてみます。是非参考にして下さい。

- ① どんな思いで中間テストにのぞんだか。
- ② 事前にどんな計画を立てたか(実行できる適切な計画だったか、計画に無理はなかったか)
- ③ 勉強は計画通りにできたか。なぜ、計画通りにできなかったか。
- ④ My学力向上プランの目標点数は適切だったか。
- ⑤ それぞれの教科でどこが間違ったか、できなかったか。
- ⑥ 間違った箇所の準備はどうだったか。(授業中理解できていたか。)
- ⑦ 授業態度はどうだったか。
- ⑧ 授業態度で改善する点があればどこか。
- ⑨ 日常の家庭学習での「予習」「復習」はどうか。
- ⑩ 日常の家庭学習の改善点はどこか。

以上10点について、反省した後に保護者の方も含めて具体的な話し合いをして頂けたらと思います。そんな話し合いの積み重ねが子どもたちを後押ししていくものと思います。よろしくお願ひします。

将来の目標が明確の子ほど自己肯定感が高い

自己肯定感とは「自己を肯定する感覚」、つまり「自分は大切な存在だ」と感じる心の感覚です。自己肯定感が高いと、「自分は大切な存在、価値ある存在だ」と感じている、ということです。ある新聞記事では自分の長所を挙げるができない小中高生が4割以上に上ることが調査で分かったと書いてありました。本年度の I-check の結果を見ると、「自分には、いいところがあると思いますか。」で「ある」と答えた生徒は1年生で41.1%(33.2%)、2年生で24.6%(29.6%)、3年生で34.4%(31.7%)でした。また「将来の夢や目標がありますか。」では1年生が57%(47.3%)、2年生が31.1%(36.3%)、3年生が24.4%(36.2%)でした。()は全国平均です。
(昨年の先輩に学ぶ会)

本当は3年生になるにつれて、自分の将来の夢や目標を明確にしていける子が多くなるべきですが、この結果を見て学校として課題を感じています。今後さらに進路学習をはじめ、高校訪問や出前講話、キャリアモデルとの出会い、職場体験や先輩に学ぶ学習等、キャリア教育の充実を図っていきたいと思います。子ども達はキャリア教育を通し学習や経験を積み上げていくことで、将来なりたい職業を具体的に言える子が多くなります。さらに私たちは授業や部活動、そして家庭での活動を通して自己肯定感を育む努力が必要です。「自分がやった」という成果を、確かに認められる状況をつくるのが何よりも大切です。自分の試行錯誤の経験やそこから得た成果が肯定的に評価されてこそ「自分は自分のままで、そこそこいい」という自己肯定感が高まるのではないのでしょうか。子どもが自分なりに考え、判断し表現することを応援していきましょう。子ども達は誰かの役に立ち、認められる経験を通して、確実に成長していきます。

